令和３年 10 月 16・17 日にフランス・パリにおいて柔道グランドスラム・パリが行われた。柔道グランドスラムは、オリンピック、世界選手権、ワールドマスターズに次いで上位に位置付けされる大会であり、成績によって選手個人にポイントが付与される。このポイントによってオリンピックの出場権が決まることから、重要な大会として位置付けられている。

自衛隊体育学校から、新添左季３等陸尉が女子 70kg 級に出場し、名だたる強豪を退けて初優勝（GS パリ）を飾った。

完全勝利
全試合一本勝ち

大会２日目に出場した新添３尉は、地元フランスのルーシー・ジャロ選手との初戦を序盤から得意の立技で果敢に攻めた。試合開始わずか１分 32 秒、攻めの姿勢を貫いた新添３尉が合技一本で勝利し好発進をした。続く２回戦は大野陽子選手（コマツ）との日本人対決。世界ランク５位（当時）の大野選手相手に臆することなく攻め、立技で技有りを奪うとそのまま寝技に持ち込み、１分 28 秒で勝利を収めた。

迎えた準決勝の相手はエレン・サンタナ選手（ブラジル）。激しい組手争いのなか、新添３尉が積極的に技を繰り出し技有りを先取。その後も手を緩めることなく攻め続け、2 分 8 秒に大外刈で一本勝ちし決勝戦に進出をした。初優勝を懸けて臨んだ決勝は、2021 年世界選手権の女王で世界ランク１位のバルバラ・マティッチ選手（クロアチア）との一戦。開始直後から激しい技の応酬となり、緊張の展開が続き、組手争いも熾烈を極めたが、女王相手に一歩も引かず、終始攻めに徹した新添３尉が足技で相手を倒すと好機を逃さずに抑え込み、横四方固での鮮やかな一本勝ちで初優勝を飾った。試合時間 2 分 40 秒で攻め勝ち、今大会の全試合を一本勝ちする完全優勝で締めくくった。

2019 年には銅、2020 年は銀、そして 2021 年、遂に金メダル獲得を果たした新添３尉は、「パリでは組手、寝技と練習してきた事を試して結果に繋がりました。まずは来年の世界選手権、そしてパリ五輪に向けて積み上げていきたい。」と試合後に抱負を語った。

東京五輪の同階級で金メダルを獲得した選手の引退に伴い、次世代への高まる期待に最高のパフォーマンスで応えた新添３尉の今後の活躍に目を離せない。

2021 世界女王相手に
果敢に攻める新添３尉

試 合 結 果

１回戦　ルーシー・ジャロ（フランス）
一本　合技【内股・払釣込足】
２回戦　大野陽子（コマツ）
一本　合技【小外刈・崩上四方固】
準決勝　エレン・サンタナ（ブラジル）
一本　【大外刈】
決　勝　バルバラ・マティッチ（クロアチア）
一本　【横四方固】